

6/20.木.74

F15エンジン輸出検討

インドネシアへ 政府、対中国念頭

政府は、航空自衛隊で今後退役するF15戦闘機のエンジンを、インドネシアに提供する方向で検討に入りました。「中国包囲網」の強化を念頭に、周辺国の軍事力強化を図る狙いです。

同国が運用するF16戦闘機への転用が想定されていますが、武器輸出のルールを定めた

現行の防衛装備移転三原則の運用指針は、戦闘機など殺傷能力のある装備品の移転について、部品を含めて国際共同開発・生産に限定。エンジンなども提供できないとされています。

そこで、政府は近く行われる両党会合でインドネシアへのエンジン提供の方針を説明するものとみられます。なし崩し的な武器輸出拡大のおそれがあり、注視が必要です。

自衛隊が保有する約200機のF15戦闘機のうち99機は改修が難しい旧式。今後約10年間で最新鋭ステルス戦

闘機F35に順次換装される予定ですが、不要となる部品の処分が課題になっています。F15は1機あたり2基のエンジンを搭載しています。